

ジャン=フランソワ・ド・バステッド著，片山勢津子 訳  
『ロココ 愛の巣』  
Jean-François de Bastide : *La Petite Maison*, 1763, Paris



タイトル『ロココ 愛の巣』とは、原題〈*La Petite Maison*〉の意識で、当時流行していたパリ近郊の別邸を指すものです。

建築家ブロンデルが陰の著者で、ロココ様式絶頂期の空間描写が描かれていることから、施主への教育的意図を含めて理想的な館を描いた、短編小説だと思われます。翻訳本では場所毎に章立てをして、解説の他に、舞台となる館の平面図、挿絵、脚注を加えて、読みやすいように工夫を凝らしました。フランス18世紀建築史が専門の日仏お二人の寄稿文は、この書の隠れた意味を教えてください。リベルタン小説として、当時のデザインや芸術技術を知るための資料として、さらに当時の思考を知るための資料としても、有意義な図書です。ご高覧頂ければ幸いです。

1758年パリにて初版 1763年バステッドにより改訂され  
今に残る『*La Petite Maison*』  
インテリア史専門の著者による本邦初訳

直訳すると『小さな家 (*La Petite Maison*)』と題されたこの短編小説は、ある貴族の小さな別邸が舞台となっている。愛人と過ごす快楽の館である。そこでおこる出来事が描かれる。出来事とは、つまり愛の駆け引きである。軽い愛の戯れが、時代に名高い芸術に囲まれた空間を舞台に舞われる。時代や文化を異にする読者であっても、くいくいと愛の巣に引き込まれていくお話である。(元岡風久「読む楽しみ」)

竹林館

— 目次 より —

プロローグ Prologue, プチット・メゾン *Petite Maison*,  
中庭・風除室 Cour・Vestibule, 大広間 Salon  
寝室 Chambre à coucher, ブドワール (閨房) Boudoir  
浴室・化粧室 Appartement de bains・Cabinet de toilette  
トイレ・衣裳部屋 Cabinet d'aisances・Garde-robe,  
庭園 Jardin, 娯楽室・珈琲室 Cabinet de jeu・Cabinet  
食堂 Salle à manger, ブドワール (閨房) Boudoir

1758年パリにて初版された小説を、インテリア史の専門家が本邦初訳。ロココ様式の建物の具体的な装飾や装備を執拗に記述しながら描かれた、ある貴族と愛人の軽い遊戯のような恋愛の物語。【「TRC MARC」の商品解説】

直訳すると『小さな家 (La Petite Maison)』と題されたこの短編小説は、ある貴族の小さな別邸が舞台となっている。愛人と過ごす快樂の館である。そこでおこる出来事が描かれる。出来事とは、つまり愛の駆け引きである。軽い愛の戯れが、当代に名高い芸術に囲まれた空間を舞台に語られる。時代や文化を異にする読者であっても、ぐいぐいと愛の巣に引き込まれていくお話である。

(元岡展久「まえがき」より)

— 目次より —

プロローグ Prologue

プチット・メゾン Petite Maison

中庭・風除室 Cour・Vestibule

大広間 Salon

寝室 Chambre à coucher

ブドワール (閨房) Boudoir

浴室・化粧室 Appartement de bains・Cabinet de toilette

トイレ・衣裳部屋 Cabinet d'aisances・Garde-robe

庭園 Jardin

娯楽室・珈琲室 Cabinet de jeu・Cabinet

食堂 Salle à manger

ブドワール (閨房) Boudoir

ロココ 愛の巣に寄せて オーレリアン・ダヴリス

感覚とかたち あるいは「小さな家」のものがたり 元岡展久

**Rococo. 1720年頃から60年頃にかけて、フランスを中心にヨーロッパに流行した芸術様式。** 17世紀のバロックのあとを受け、18世紀末の新古典主義に先行した。その名称は岩(roc)という言葉から由来し、もとは庭園を飾る人口の岩窟や貝殻などの自然物を模した装飾を呼んだ。